

▶ 第4章

## 世界で暗躍する北朝鮮ハッカー

### ——暗号通貨の奪取工作と韓国の対応

日本経済新聞社 ソウル支局長

藤田 哲哉

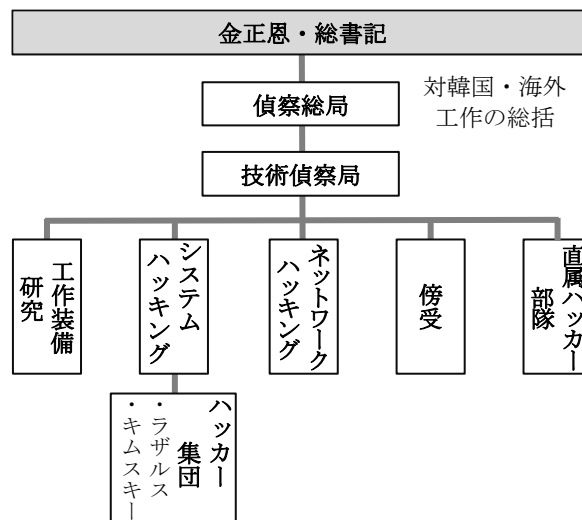
#### 【ポイント】

- ▶ 北朝鮮がサイバー攻撃を担うハッカーの育成・強化を進めている。各地の学校から理科や数学が得意な児童・生徒らを選抜し、特殊学校で教育したうえで、関連組織に配置する。国際的に暗躍するハッカー集団につながるシステムが構築されている。
- ▶ サイバー部隊の大きな目的は核・ミサイル開発の資金獲得で、22年に北朝鮮が得た仮想通貨は10億ドルとみられる。世界各地からハッキングで奪取した仮想通貨を現金化し、外交特権を利用した外交官が直接平壤に運搬する手法も報告されている。
- ▶ 韓国の尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権は北朝鮮のサイバー攻撃に対し、これまでの「防衛的立場」を転換。北朝鮮ハッカーやスパイ活動の手口が巧妙化するなか、言語の特徴などを踏まえた独自の対策を進めるとともに、日米などとの国際連携による対応も一段と強化している。



注目データ

北朝鮮のハッカー部隊の組織イメージ



資料：韓国政府の情報や報道をもとに日本経済新聞社ソウル支局で作成